

#### 〔4〕 日常生活の指導における実践

##### (1) 取り組みについて

思春期を迎える中学部生徒に、挨拶・マナー・敬語の使い方、応答の仕方、中学生らしい言動、仲間意識等を育てていくことは重要である。日常生活の中で、繰り返し指導を重ね、定着を図りたいと考えた。

##### (2) 実践事例

###### ① 朝の会、帰りの会（2年生）

朝の会、帰りの会は、クラスでのコミュニケーションや自己認識を図る重要な場である。内容は下表の通りである。

朝の会	帰りの会
1 朝のあいさつ	1 今日の反省
2 健康観察	2 先生の話（反省、予定、連絡等）
3 歌、合奏	3 帰りのあいさつ
4 日記発表	
5 先生の話（予定・連絡等）	

会の進行は、係活動として日直の生徒が順番に当たっている。毎日、同じパターンで繰り返されるので、障害の重い生徒にとっても分かりやすく、見通しの持ちやすい活動である。どの生徒も司会者として、意欲を持って進行することができる。

健康観察は、自分の健康度を10点満点で表し、クラス全体の健康度を計算している。この時、「今日は、～だから○点です。」とその理由を述べることにより物事の因果関係をとらえさせようと配慮している。「今日は、バスが遅れたから6点です。」などと、的外れな理由を述べていた生徒が、「今日は、のどが痛いので9点です。」と、つじつまの合った表現ができるようになった。

日記発表は、家庭で書いてきた日記を発表したり聞き合ったりする場であり、コミュニケーション活動として重要である。発表する側は聞き手に分かりやすく話し、聞く側はよく聞いて何が話されたのかその内容をつかみ、分からないことを質問する。発表者は、その質問に答える。といった生徒同志のやりとりが行われる。文脈の一部だけをとらえたちぐはぐな質問がなされ、応答者も的外れな応答をすることも多々あったが、少しずつ筋の通ったやりとりができるようになった。

一日の反省では、自己を客観的にふり振り返り反省する生徒、一日の出来事を羅列する生徒、一日の出来事を思い起こすことが難しい生徒など、その実態は様々である。

以上、どの活動も自分を見つめ、自分のことばで考え、筋道を立てて表現していく過程を大切にしてきた。障害の実態はさまざまであっても、思春期を迎えた中学部の生徒にとって、自己をみつめ自己を知り自己の人間性を高め、人と楽しく関わっていくことは重要であると考えた。

今後も、自己をみつめ、思考をくぐらせたことばである内言を充実させることにより、より豊かなコミュニケーションを目指したい。

## ② 性に関する指導（1年生）

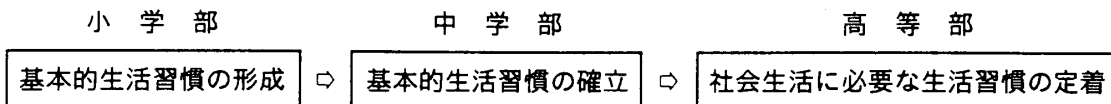
### a 取り組みに対する基本的な考え

性教育年間指導計画をふまえ、中学部では特に4つの目標を定め、指導に当たっている。

- ・からだや衣服を清潔にできる態度や習慣を身につける。
- ・からだの成長に気づき、自分らしい生活の仕方を知る。
- ・男女協力ができる。                      ・生命の尊さを知ることができる。

入学直後の校内宿泊学習や日常の観察を通して、下着を含めた衣服の着脱・取り替えや入浴の指導の必要性を感じた。そこで、この2点を中心にしながら、「からだや衣服の清潔」を指導することにした。

### b 実践の概要



指導の重点は上記のように高まり、広がる。中学部1年ではこの中でも『身体の清潔』に重点を置いた。身体の清潔では洗顔・歯磨き・手足洗い・うがい・汗ふき・爪きり・入浴の項目を指導する。指導する場面は、学習時間はもちろん日常の生活すべてにわたる。

### c 展開の様子（ここでは、入浴指導についての様子を記す。）

	指導のポイント	生徒のようす
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任教師が生徒とペアになり、校内で一緒に入浴し、汚れやすい箇所を自覚させる。</li> <li>・入浴時のポイントを家庭へ連絡。</li> </ul>	<p>「お風呂だ。お風呂だ。」とってはしゃいだN男</p> <p>「いつもお母さんと入っている。」と話したS男</p> <p>洗髪をし、「いい匂いでしょう。」とうれしそうに先生に話したH男</p>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れが激しい部位については、教師がモデルになって洗い方を示す。 (宿泊学習の機会を利用した指導)</li> </ul>	<p>「家で練習しました。」といて、「ごしごし」といいながら、洗髪をしたH男</p> <p>教師の援助を受けながら「1、2、・・・50」と数えながら長時間入浴していたL男</p>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連絡を取りながら、できるだけ、一人で洗えるように指導し、教師の援助を控える。 (大山林間学校：宿舎での実践)</li> </ul>	<p>「お母さんに新しいシャンプーを買ってもらいました。」と自慢し、「もう自分で、できます。」と話したH男</p> <p>「立ったまま、身体にお湯をかけるのは、やめなさい。」と言われ、浴室用の椅子に腰掛けて、お湯を流すようになったA男</p>

### d 実践を終えて

入浴指導が性に関する指導のすべてではない。また、一度や二度の指導が短時間に生徒へ浸透するものでもない。しかし、からだが大きく変化するこの時期、性に関する指導を常に意識しなければならない。一つの事例に終わることなく、今後も、実践を積み上げたい。